

交流・学び・未来の農業を育む施設を目指して

貴重な学びのときを共有し、交流・絆を深める大きな家として、みんなが行き交い、出会い、刺激し合いながら楽しく充実したキャンパスライフを過ごせる、居心地のいい空間を目指します。

その中心となるのが、ロビーや既存の多目的ホールに連続するキャンパスモール。それは木漏れ日あふれる明るく心地よい、豊かな空間性をもつおらかな空間です。

その時代時代の変化に応じて、大学関係者や学生たちが自ら工夫して作る、魅力的な設えを許容する、自由で高揚感のある空間を創造することが我々の役割だと考えます。

① 福島県農業の持続的発展に向けた先端技術 (スマート農業) を学べる施設の在り方に関する提案

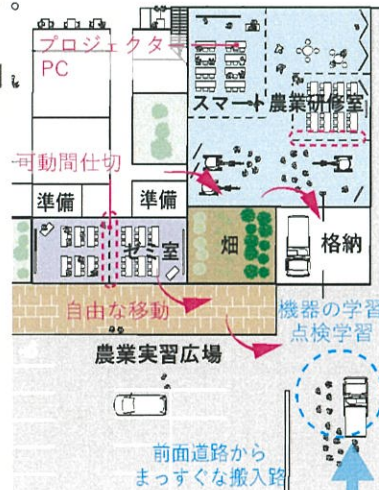
1. 様々な学習形態が可能な施設づくり

1 内外一体となった学習空間

スマート農業研修室、専門研修ゼミ室は内外一体となる学習空間とし、農業関連機器を利用した学習、ICTを利用した学習など、屋内・外での学習を容易にします。専門研修ゼミ室に農業実習広場、研究用の畑を隣接させ、様々な学習が可能とします。

2 農業機械の安全な搬入・安全な学習空間

農作業での事故は全国的に多く発生しており、安全な操作・点検が重要となります。農業機械専用の進入口、広々とした点検・学習スペースを設け安全な搬入を可能とすると共に、安全な操作学習が可能なスペースを提案します。



△ 可動間仕切で多様な学習形態に対応可能

3 可変性のある学習空間

専門研修ゼミ室2室は隣接、可動間仕切を設けた様々な学習形態に対応可能なつくりとします。スマート農業研修室は可動間仕切で仕切ることにより、農業機器を利用した学習や講義、グループ学習など様々な形態での学習を可能とします。

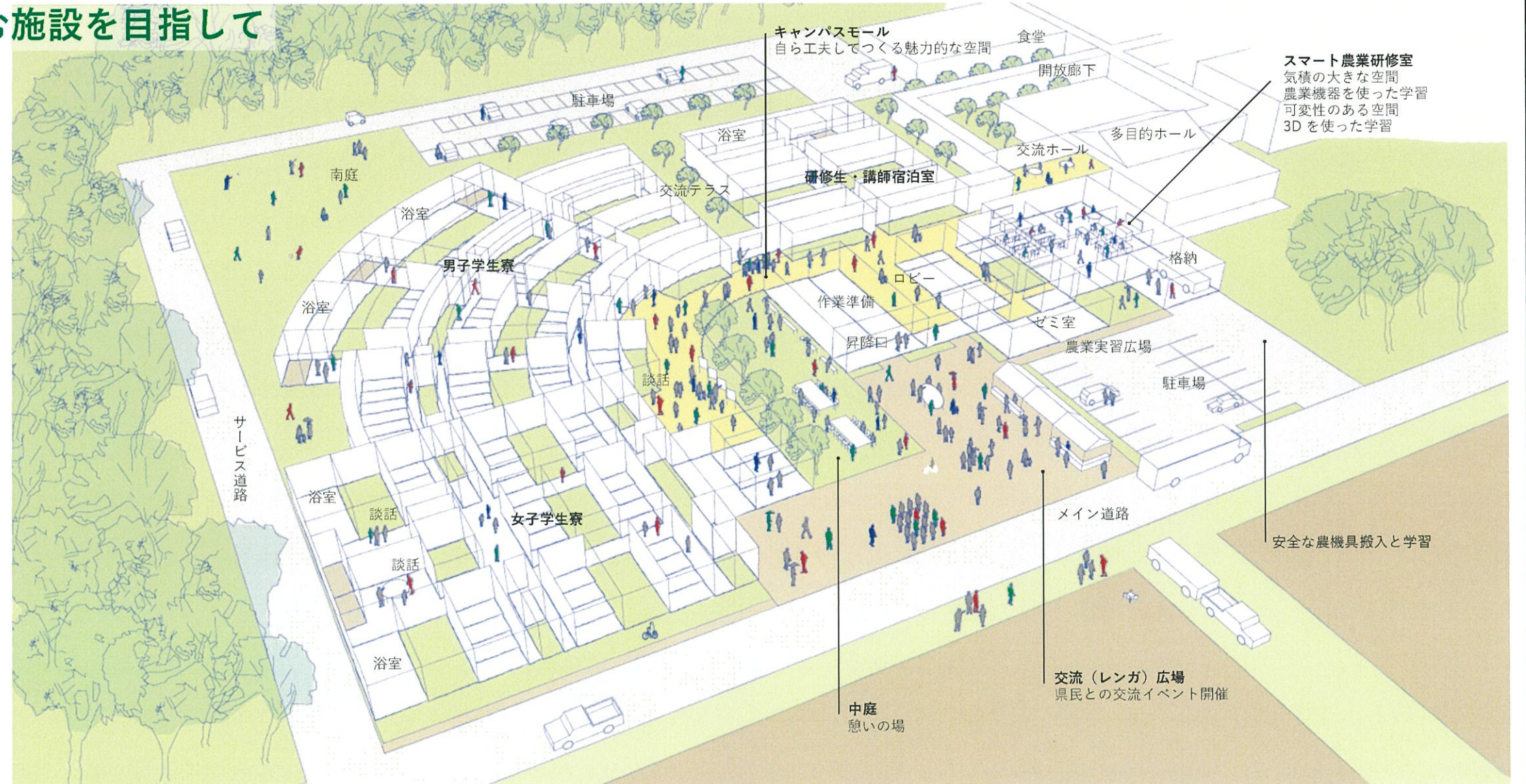


4 アクティブラーニングと ICT

スマート農業研修室や専門研修ゼミ室にプロジェクターやカメラ、PCを整備します。仮想ディスプレイの表示やアクティブラーニング用テーブル、いすを設置することで、様々な活動が可能とします。実機を搬入しての実習や体験がスムーズに進むよう、機器の搬入動線計画を行います。

5 3D プロジェクター

スマート農業研修室には3D プロジェクターの利用にあたり照明や音響整備を行います。照明は複数のパターンをつくります。スクリーンや3D モニターも複数台設けるなど、学生が見やすい環境を整えます。



② 良好な教育・研修環境の中で学生や研修生が快適に過ごせる施設の在り方に関する提案

1. 快適な居住空間

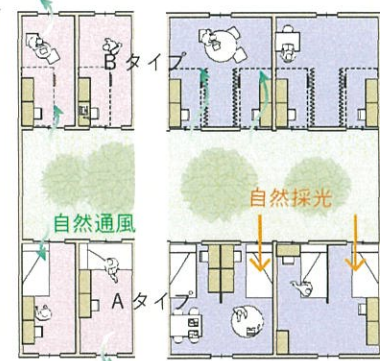
1 ゾーニングの明確化とプライバシーの確保

寮を北側の閑静で緑豊かなエリアに配置し、学習エリアを前面道路に面した利便性の高いエリアに配置することで、ゾーニングの明確化を図ります。利便性の向上とプライバシーの確保、寮の快適な空間をつくります。

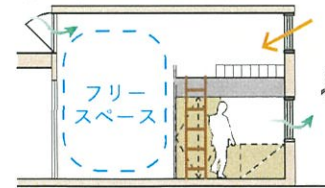
2 居住空間のアメニティ

a. 居室と光庭

居室の設計に際して、様々な使い勝手を考え、話し合いながら検討することが重要と考えます。利便性、学生の体格や体調を視野に、ベッド床置タイプやハイベッドタイプを検討します。



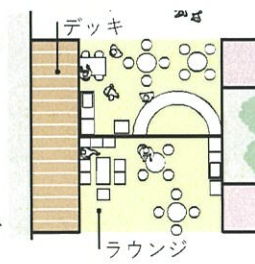
排煙窓による通風可能



Aタイプ
居室内のベッドを床置きとする。狭いが利便性が高いタイプ。
Bタイプ
居室内にハイベッドを配置。自由に使えるスペースが広いタイプ。

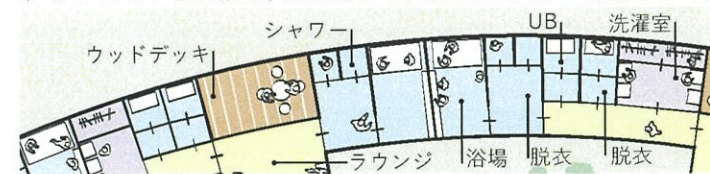
b. ラウンジ

寮の学生や研修生との各エリアに交流の場をつくります。書籍やICTを整備し、気軽に利用できる環境とします。明るく内外一体となった空間はコミュニケーションを誘発します。ウッドデッキを敷き、縁側でくつろぐ空間をつくります。



c. 水廻り

トイレやシャワーの出入口はプライバシーに配慮し、人の行き来する廊下へ出入口が面することのないよう配置します。水廻りは広めに確保し、手洗いや消毒に配慮するとともに換気設備を充実させ、感染症予防に配慮します。



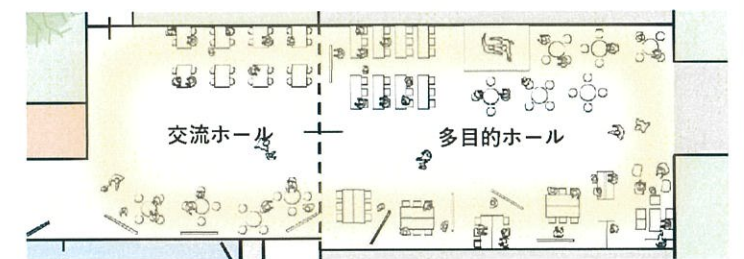
d. 男女比に対応した区画変更

寮の男女の区画は、男女比の変化に対応し、容易に変更できる平面計画とします。男女比により廊下の区画ラインを変更します。

2. 既存との連携

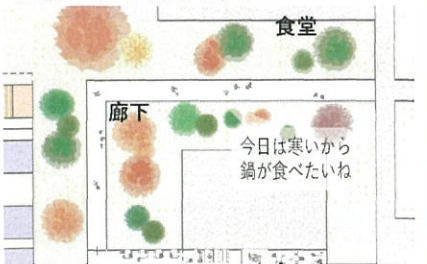
1 既存多目的ホールにつながる交流ホール

既存多目的ホールに隣接し、一体となった交流ホールを提案します。既存建物との連携を促し、集会や交流など様々な活動の場となります。



2 食堂につながる四季を感じれる開放廊下

寮生活での楽しみである食事は、開放廊下を通り食堂へと向かいます。広葉樹の並木を設け、四季を感じながらの移動空間としてしつらえます。



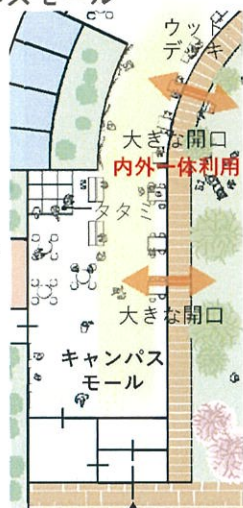
③ 学生等の自らの学びと農業者、指導者等と多様な交流を促す施設の在り方に関する提案

1. 交流が広がるキャンパスモール+交流ホール

1 コミュニティがうまれるキャンパスモール

長さ80mのキャンパスモールは、読書や自習、休憩、談話などの憩いの場として、展示や発表・グループ活動などの発表の場として、また、学生、研修生、教職員、企業や市民の方々と交流するラウンジとしても様々な活動が可能となります。

タタミやテーブルなど様々なコーナーを設け、好きな場所で活動できます。また、キャンパスモールは外部に大きな開口を随所に設け、内外一体となった空間をつくり出します。外での休憩、読書、イベント時には内外一体で利用でき、多様な活動が可能になります。



△キャンパスモールイメージ

2 様々な活動を促す交流ホール

交流ホールはキャンパスモール、スマート農業研修室、既存多目的ホールと隣接し、スマート農業研修室と既存校舎の連携した学習活動を可能とします。また、交流ホールはキャンパスモールと繋がる、学生・企業・職員との交流の場として様々な活動を促し、活動の幅を広げます。

2. 交流のうまれる広場をつくる

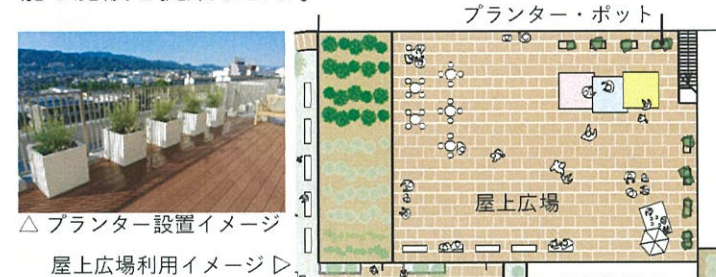
1 交流広場 - 桜や里山の木々とレンガ

交流広場は、緑豊かな中庭と隣接させ、桜の花や紅葉が楽しめる、四季を感じられる空間とします。

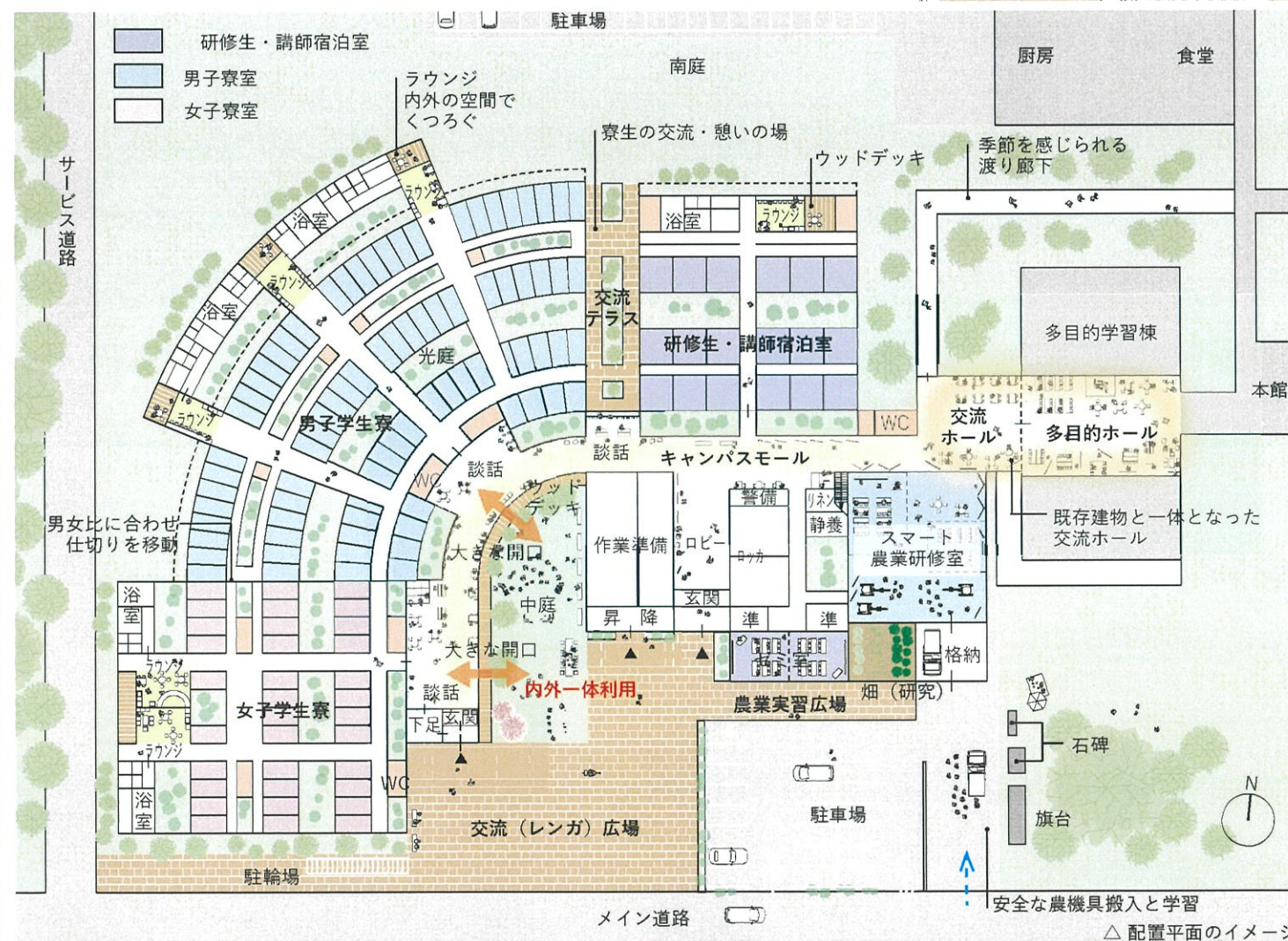
レンガ舗装を使用し、土の持つ温かみや焼物特有の色調で、自然豊かな景観や、木造建築との調和を図ります。広々とした交流広場では、収穫祭などのイベント、農産物販売実習、様々な交流が可能です。また、レンガに卒業生のメッセージを刻み、学校の歴史や歩みを表現する場を提案します。

2 屋上広場 - 圃場を見渡す場として

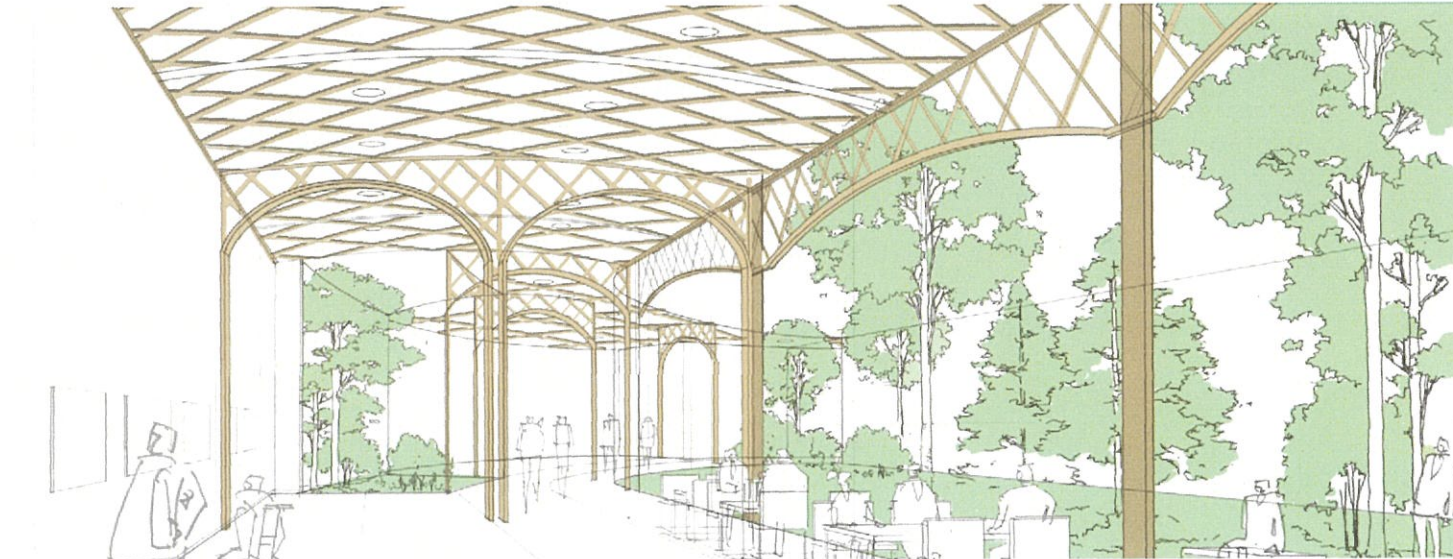
屋上広場は、農業実習や交流の場としてしつらえます。屋上から圃場を見渡すことができ、作物の確認や様々な指導が可能となります。最近では屋上を使った都市型農業など、様々な試みが行われています。様々な研究が可能な施設を提案します。



△プランター設置イメージ
△屋上広場利用イメージ



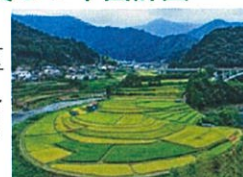
△配置平面のイメージ



④ 伝統と革新、地域に配慮した意匠、県産材の積極的な活用とエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の在り方に関する提案

1. 田んぼの区割をイメージした美しい平面計画

田んぼや畑の美しい区割を意識した平面計画を提案します。美しい区割はわかりやすい動線計画、利用しやすい回廊計画、外部とのつながりが容易なプランを実現します。



2. 果樹園のようなキャンパスモール

キャンパスモールは果樹園の樹々が枝葉を伸ばしたような空間を提案します。ガラスから見え隠れする並木のようなファサードは周囲の景観と調和する計画とします。

3. 木材の利用

1 県産材の利用

この地域は阿武隈山地が隣接し、自然豊かな地域です。県産材である八溝杉やから松を利用し、県民に親しまれる空間を提案します。また、キャンパスモールは内装に木をふんだんに使用し、緑豊かな中庭と隣接させ、森林浴を楽しむ空間づくりを提案します。

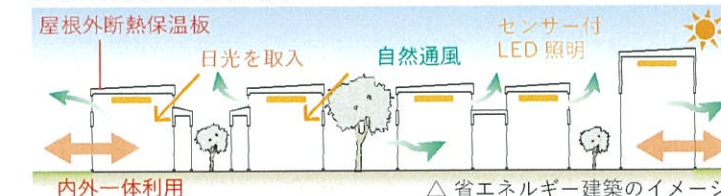
2 一般流通材の利用

柱スパンや高さを検討し、一般流通材を多く利用できる構造計画とします。また、地元森林組合とのネットワークを活かし、最近の材料不足に対応します。部分的に計画する大断面集成材の場合も県産材の利用を検討し、地元の木でつくる親しみのある空間をつくり出します。

4. 省エネルギーで保守管理の容易な建物

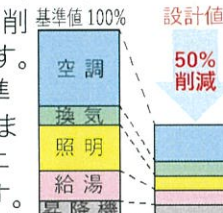
1 自然エネルギーの活用

居室には大きな窓を確保し、自然採光を取り込むと共に、居室ドア上部に開閉可能な窓を取り付け、風が通り抜ける計画とします。



2 ネット・ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB) を目指す

省エネルギー、ランニングコストの削減につながるZEB化導入を提案します。建物年間一次エネルギー消費量を基準値から50%以上削減を目標に計画します。また、節水機器やリサイクル・エコロジー商品も積極的に取り入れます。

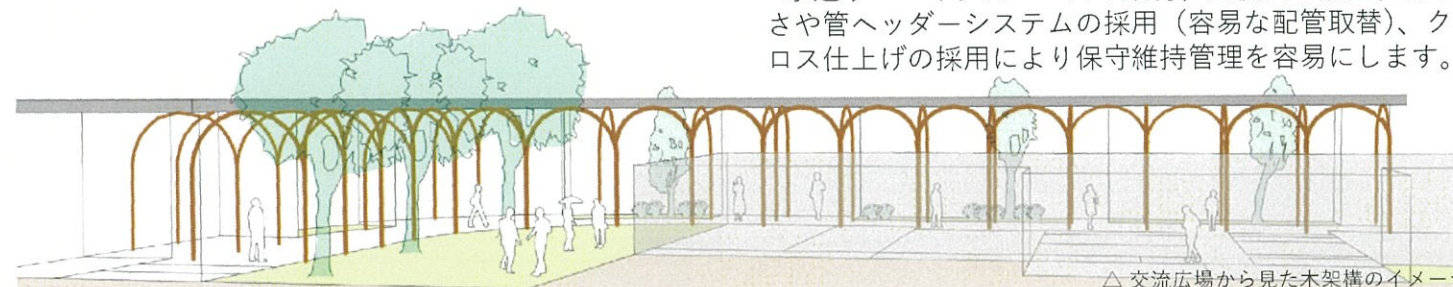


【ZEB化実現のための例】

- ① 高気密高断熱化 (屋根・外壁の外断熱工法、熱貫流率の低い外部建具)
② 空調: 高効率ヒートポンプ冷暖房、地中熱空調システムの検討
③ 換気: 全熱交換システム
④ 給湯: 高効率ヒートポンプ給湯機
⑤ 照明: LED照明、人感・明るさセンサー、太陽光発電の検討

3 保守維持管理の容易性

水廻り・パイプスペースの集約、点検口の設置、給水さや管ヘッダーシステムの採用 (容易な配管取替)、クロス仕上げの採用により保守維持管理を容易にします。



△交流広場から見た木架構のイメージ

⑤ その他本施設の計画において特に重要と考える提案

1. 学生・教職員・農業従事者・県民のみなさんと協力して作る施設

私たちはこれまで多くの庁舎、学校などの公共施設づくりを機会に、毎回多くの方々と共同作業、ワークショップを企画・実行してきました。設計の初期段階から学生や県民のみなさんをお招きし、学生や県民による学生や県民が育む新しい農業人材育成センターの実現のため、

ワークショップの開催を提案します。図面や模型を活用し、共に考え、意見交換しながら“ながく愛される農業人材育成センター”をつくり出します。ワークショップの開催

